

## 四 八〇年代以降の体育会

### ◆ 競技成績の低迷

田中康夫氏の『なんとなくクリスタル』に象徴される一九八〇年代、体育会運動部の部員数の減少と他大学の競技力強化によって、名古屋大学運動部は競技成績の低迷が続きました。いつぼうキャンパスではスポーツ系のサークル活動がさかんになっていきました。八〇年代に活躍した運動部としては、七〇年代後半からくり返しインカレに出場していたバスケットボール部や一九八三年にインカレに出場し、二回戦に進出したソフトボール部があります。

### ◆ 『濃緑』も時代とともに

従来、『濃緑』は、運動部員の一部と新生向けに配布されてきました。しかしそれでは学年を重ねた一般会員に情報が伝わりませんでした。そこで一九七一年、はじめて一般会員向けの『濃緑』が発行されました。

デザインや装丁、そして執筆のスタイルは、時代とともに変化しています。一九七五年の

『濃緑』からは、執筆規定のあったクラブ紹介のスタイルが自由になり、運動部の生活が生き生きと紹介されるようになりました。いつぼう顧問や新年度役員の写真、部員数、練習時間などの掲載がなくなり、運動部の概要がわかりづらくなった気もします。

また勧誘の状況などが変化したかどうかはわかりませんが、入学手続きの際に歩く通称「細道」が、一九七九年までの「夢の細道」から、一九八〇年には「地獄の細道」と記述されるようになっていきます。

カラー写真で運動部が紹介されるようになったのは、一九八八年度からです。いわゆるバブル景気の時代ですから、『濃緑』の広告収入はこの頃から急激に増加しています。やはり体育会の経営も世相と反映しているようです。

一九九〇年度の『濃緑』では、はじめて女子学生の運動部専用紹介のコーナーが設けられました。ピンク色のページで女子学生の運動部活動が紹介され、同じ運動部でも男子と女子とは異なる紹介があるということが感じられます。また一九八九年には女性の常任委員も誕生しています。

#### ◆近年の『濃緑』とインターネット

近年では『濃緑』も大きく変貌し、運動部員内部にうけを狙った匿名部員の雑誌風の読み物

になってきました。一九九八年版からは年間二〇〇〇万円以上の金額の動く体育会の決算書が掲載されなくなっています。これは、一般会員への説明責任を果たすうえで問題があるように感じられます。また二〇〇〇年版『濃緑』からは、会務を執行する常任委員会の説明も掲載されなくなっています。こうした点からみると、『濃緑』という媒体の機能を見直す時期が来ているのかもしれない。

最近では、体育会のホームページが開設させるなどのITの活用が進行しています。各運動部でもホームページを作成し、積極的に情報公開をおこなっているようです。

#### ◆体育会から見た名大生気質

一九八五年、体育会も三〇年周年をむかえました。第三〇代の赤尾幸俊体育会委員長は、名古屋大学体育会の当時の風潮を『濃緑』に寄せています。

「名大祭と言つて騒いでいることもあるけれど、それにしたところで、盛り上がりが今一つではないだろうか。そして三年前の七大戦。名大が主管でありながら東大に優勝をさらわれ、二位に甘んじていたあの名大。それらの風潮を如実に語るのは名阪戦においてせり合いの末みじめにも負けていることである。二年前の名阪戦の逆転優勝の可能性というのは、名大が阪大に劣らないということの意味しているのだ。しかし負けた。なぜなのだろうか。原因はいろいろ

表4 国立七大学体育会のホームページアドレス (2001年3月現在)

北海道大学体育会	<a href="http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/taiiku.htm">http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/taiiku.htm</a>
東北大学学友会体育部	<a href="http://www.tohoku.ac.jp/student/index-j.html">http://www.tohoku.ac.jp/student/index-j.html</a>
東京大学運動会	<a href="http://www.undou-kai.com/">http://www.undou-kai.com/</a>
名古屋大学体育会	<a href="http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/circle/sonota/taiikukai/">http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/circle/sonota/taiikukai/</a>
京都大学体育会	<a href="http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/</a>
大阪大学体育会	<a href="http://www.river.sannet.ne.jp/ousu/index.html">http://www.river.sannet.ne.jp/ousu/index.html</a>
九州大学体育総務委員会	<a href="http://isweb31.infoseek.co.jp/school/taiikuso/">http://isweb31.infoseek.co.jp/school/taiikuso/</a>



体育会機関誌『濃録』

考えられるが、名大は一点二点を争う接戦になるとなぜか負けているということである。

ところで今一つ気になる風潮というものがある。それは「挑戦してやろう」ということが日常茶飯事に起らないことである。名大は歴史としては新しく、それゆえ学問的にはかなり革新的に（イデオロギーとしてはではなく）活動している。しかし学生の側には、何かそんな空気は薄い」。この文章からは名大生の学生気質が読み取れます。

#### ◆ 体育会の組織改革

一九八〇年代後半になると、体育

会の組織改革がはじまりました。それまで体育会では、運動部から選出される委員によって構成される委員会が最高議決機関でした。そして委員会では、正会員のなかから選出された常任委員が会務を執行していました。一九八八年に体育会規約が改定され、運動部を六グループにわけ、そのグループごとに一名の常任委員を必ず選出することになりました。また委員会の承認を得れば、一般正会員が常任委員になることができることも明記されました。こうした組織改革によって、より多くの学生が体育会の会務にたずさわることができるようになりました。

#### ◆体育会会長賞と運動部の活躍

一九八九年、名古屋大学体育会会長賞が設けられました。優秀な個人、団体およびその指導者の榮譽をたたえ、その功績を広く顕彰することが目的でした。会長賞には特別賞と一般賞があり、初年度は、中部日本学生拳法大会個人の部準優勝の増崎貴（日本拳法部）、天山山脈雪蓮峰（中国標高六、六二七m）の初登頂に成功した岩淵英人（山岳部）、第四四回国民体育大会に出場した大月岳彦（水泳部）・丹下靖英（陸上競技部）、愛知県下学生弓道大会個人の部優勝の山田修（弓道部）、団体には少林寺拳法部が選ばれました。表彰式のなかで早川幸男学長は、「今日の表彰式では、表彰に五分足らずしかかからなかったが、来年には五分から十分、再来年には十分から十五分へと表彰の時間が延びていき、あまりに多すぎる表彰対象者のためにう

れしい悲鳴をあげられるようになることを期待します」と祝辞を述べています。特別賞は平成六年度に第四九回国民体育大会ヨット競技で優勝した竹本さやか（一般会員）が受賞しています。

#### ◆名古屋大学の変化と大学スポーツシステムの見直し

二〇〇〇年度現在、名古屋大学では大学院の重点化が完了しました。その結果、入学者における学部学生と大学院生の構成はほぼ同数となっています。学内構成員は、二〇〇〇年現在、学部等学生が約一万一〇〇〇人、大学院学生が約五七〇〇人、短期大学部学生が二〇人、教職員が約三五〇〇人、留学生が約一〇〇〇人となっています。

こうした名古屋大学の変化にともなって、体育会運動部に所属しない留学生、大学院生、社会人、そして教職員が増加しています。体育会運動部の目的は、「会員の体位の向上、スポーツマンシップによる人格の陶冶、及び会員相互の親睦」です。そのため、体育会へ大学院学生、教職員、留学生を入会させるマネジメントが求められます。そのためには体育会のスポーツ事業に多様性を持たせる必要があります。

たとえばスポーツ大会など運動部に入部しない会員に対するスポーツサービスの充実が必要になります。学部学生に限定された従来の競技中心の単一型から、多様な参加形態を選択でき

る運動部への変貌がもたられているのではないでしょう。一部の小学校や中学校の部活動では、少子化の影響で学校の壁をこえて統合するなどのスポーツ改革の動きがあります。また地域のスポーツクラブを育成する動きもあります。体育会運動部でも、舞踏研究会、オリエンテーリング部などはいち早く外部の大学と連携しながら運営がおこなわれています。今後いつそう体育会運動部が、全学的に認められるようマネジメントを見直す必要があるのではないのでしょうか。

#### ◆体育会スポーツと公開講座

名古屋大学は、名古屋大学通則に「社会人の教養を高め、地域社会の教育文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる」（第六七条）としています。一般に国立大学では、スポーツ・レクリエーション関連の公開講座が開講されています。講座の内容はテニス、ゴルフ、スキー、水泳が多く見られ、とくに体育・スポーツ科学を専門とした鹿屋体育大学や体育専門学群のある筑波大学では多様な講座が用意されています。対象は一般市民、専門家、青少年で、受講者の熟練レベルを問う講座もみられます。このような公開講座は、ハード（施設）とソフト（指導者）、そして両者のマネジメントが必要になります。今後こうした面においても、体育会の果たす役割があるのではないのでしょうか。



山田杯争奪駅伝大会

#### ◆体育会と大学スポーツ施設の開放

スポーツ施設の開放は、地域社会のスポーツ活動に貢献するひとつの方法です。国立大学のスポーツ施設を学外の人が利用することは、「国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準について」（会計参事官通知国会第六号）で決められています。スポーツ活動では「庁舎等の一部（グランド等）を地方公共団体等の主催する野球大会等に使用させる場合」に該当します。この場合、使用期間が一時的であり、かつ使用目的が営利を目的としないという条件があります。使用料金は、使用料算定基準に基づいて算定されたものに消費税が加えられます。また電気、水道、電話、ガス料なども利用者が支払う必要があります。



現在、名古屋大学では施設開放の積極的なPR活動はなされていません。しかし体育会が地域社会へのスポーツサービスを提供すれば、学生、職員、市民との交流が深まるとともに学生の貴重な社会体験になるのではないのでしょうか。

## 五 学内のイベント

### ◆体育会の事業

米国の大学には、正課体育であるフィジカル・エデュケーションのほかにレクリエーション・スポーツ、インタラミューラル・スポーツ、エクストラミューラル（またはインターカレッジイト）・スポーツの三つの種類があります。レクリエーション・スポーツは、健康維持やレジャーのために学生や教職員、あるいは地域の人が参加することもあります。インタラミューラル・スポーツは、学内対抗スポーツ大会のことです。そしてエクストラミューラル・スポーツは大学対抗戦としてメディアにも注目されています。名古屋大学でも体育実技、サークルや同好会およびスポーツ事業、体育会が主催する各種スポーツ大会、体育会運動部の